

# 主任保育士の実態と あり方に関する 調査研究報告書



社会福祉法人 日本保育協会

# 主任保育士の実態とあり方に関する調査研究報告書

平成22年度

社会福祉法人 日本保育協会



# 目 次

序	1
第1章 主任保育士のあり方について	5
第2章 調査票調査	19
1 調査票調査の方法	21
2 調査結果の分析	23
3 項目別考察	44
3-1 フェース・シート	44
3-2 主任保育士の勤務実態	48
3-3 主任保育士の職務 ―現在行っていること、今後特に力を入れたいこと―	52
3-4 主任保育士としての担当業務	56
3-5 主任保育士としての自己評価	61
3-6 主任保育士として現在の働き方の意識及び満足度について	65
3-7 主任保育士が専門性を発揮するための取り組みと 主任保育士をやっていて良かったと思える時	71
第3章 主任保育士の実態とあり方に関する総合的考察と展望	75
付 録 調査票	95
集計票	105



# 序

本調査研究事業の意味について

## —いきいきとした保育園をめざして—

### 1 調査研究の目的

社会福祉施設運営において、職員の処遇の向上と経営の向上と施設利用者の処遇の向上はひとつのものであると言われていています。これは、『保育所職員の処遇の向上』と『保育内容の質の向上』が、そのまま子どもの処遇の向上となり、経営状況を好転させるという意味でとらえることができます。

日本保育協会の調査研究事業の成果が、少しでもこのことに貢献できることを願っております。

#### ●いきいきとした保育園をめざすには

前述した「保育所職員の処遇の向上」が、保育園がいきいきとするための大きな条件の一つです。俗に「(保育士が) 疲れていたのでは元気な(質の高い) 保育はできない」と言われるものがこれにあたります。

二つ目の大きな条件としては、保育内容の質の向上です。保育者の、健全な子どもの育ちを見る目、発達援助を進める確かな実践力が求められております。

三つ目の大きな条件としては、保育所機能が外部に開かれていることです。社会福祉施設は、地域に、社会に開かれた施設を目指して発展してきました。

『子どもの保育内容を高める。とくに保育士の努力によって、子どもの処遇がよくなる。よい処遇がよい評価を得て、選ばれる保育園としての支持を得る。そうすると入所希望者が増え、保育園の経営に余裕が生まれる。余裕のある施設経営は結果として職員の処遇の向上を可能にする。職員の処遇の向上は子どもの処遇の向上つまり保育内容の質的向上につながる。』

これが良好な循環と言われていています。現実はこのように単純にはいきません。しかし、保育所運営の努力の方向性としては正しいと存じます。

これらのことを前提として、今年度は特に、保育所運営の要<sup>かなめ</sup>と言われる「主任保育士」の実態とあり方に焦点をあて、厚生労働省の補助事業の一つとして「主任保育士の実態とあり方に関する調査研究事業」を実施いたしました。

## 2 本調査研究の展望

将来的展望といたしまして、調査研究事業の成果が、『保育所職員の処遇の向上』と『保育内容の質の向上』に貢献できることを展望しております。

## 3 調査研究のねらい

保育園には、独自の労務管理があります。職員処遇を工夫することによって保育内容を向上させることが期待できます。保育園の職員「人材」をまさに「人財」として確保していくためにも、労働条件・処遇の向上を、中・長期的な調査研究のねらいとして位置づけております。

## 4 調査研究の進捗

### ●調査研究委員会

調査研究委員会を4回開催いたしました。5月18日（火）、6月15日（火）、7月13日（火）、11月12日（金）のいずれも午後1時30分より午後4時30分までの3時間です。

調査研究委員は8名から構成されております。調査研究委員長は、東京成徳短期大学の寺田清美教授をお願いいたしました。他研究委員は、子どもの領域研究所所長の尾木まり先生、東京都日野市・つくしんぼ保育園主任保育士の久野順子先生、埼玉県狭山市・狭山台みつばさ保育園主任保育士の廣田智子先生、東京都葛飾区・さゆり保育園主任保育士の小野田晴世先生、大阪府大阪市・天宗瓜破東園副主任保育士の中島好美先生、愛媛県今治市・龍門保育園主任保育士の龍田三津子先生、宮崎県都城市・下長飯保育園主任保育士の池脇きん子先生です。

調査研究委員のうち、現場の6名は、日本保育士協会の理事さんに入らせていただきご尽力いただいたことに対し深く感謝します。

### ●調査研究の方法

調査研究委員会では、調査研究事業の企画、調査票の設計、調査票調査の配布、データの集計、調査票の分析、報告書原稿の分担執筆、考察についての打ち合わせ、報告書編集作業等を進めてまいりました。

### ●調査票調査

「主任保育士の業務は多岐にわたっている、責務も重大である、主任保育士の働きは保育園の内容を反映する、主任保育士の重要性は年々高まっている」という状況を、客観的にデータとして把握するために、全国認可保育所22,873施設（日本保育協会 調査時点把握）に対して、層化無作為抽出法を行い10分の1にあたる2,325施設の「主任保育士また主任保育士に替わる方（保育及び保育を総括する主任保育士の役割を担う保育士）」を対象とした調査を行いました。

回収率は高く、49.1%にあたる1,141カ所の保育園から回答を頂きました。この種の調査票調

査としては十分な分量を確保することができました。

調査票では、主任保育士の勤務実態としてローテーション勤務、クラス担任の有無、勤務状況、職務内容、役割分担、主任保育士としての自己評価、主任保育士の専門性を発揮するための必要な取り組み、働き方への意識、現在の働き方への満足度、主任保育士をやっていて良かったと思える時、主任保育士のあり方に関する自由記述を尋ねました（付録参照）。

### ●報告書について

報告書は、平成23年3月に全国の都道府県・市町村、国公立図書館、保育関係者に配布し、日本保育協会のホームページにも報告書全文を掲載いたしました。

報告書には、主任保育士のあり方について、フェースシート（保育所及び回答者の基本属性）、勤務実態、職務、担当業務、自己評価、現在の働き方への意識及び現在の働き方への満足度、専門性を発揮するための取り組み、主任保育士をやっていて良かったこと、希望することについての詳細な集計データと、全研究委員からの分析・考察を掲載いたしました。

報告書を読み終えた時、日々の保育の中で自分に与えられた職務を全うしようと前向きに取り組んでいる主任保育士の姿や、主任保育士の今後の望ましいあり方、課題等を捉えることができるでしょう。この調査研究報告書をもとにして、『保育の質の向上』と『保育園の職員処遇の向上』に、少しでも資することができれば、望外の幸せでございます。

社会福祉法人 日本保育協会



